

柔道整復学科・昼間1部（1年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
基礎分野	からだの仕組みⅠ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの仕組みⅢ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの働きⅠ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの働きⅡ	山本 恒之	30	2	15
	外国語	及川 陽子	30	2	15
	健康科学	山下 薫	30	2	15
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	岸野 庸平	30	2	15
	解剖学Ⅱ	網塚 憲生	30	2	15
	解剖学Ⅲ	網塚 憲生	30	2	15
	生理学Ⅰ	網塚 憲生	30	2	15
	柔道Ⅰ	八重樫・大村	30	1	15
専門分野	基礎柔整学Ⅰ	杉浦 透	60	2	30
	基礎柔整学Ⅱ	杉浦 透	60	2	30
	基礎柔整学Ⅲ	工藤 久美子	60	2	30
	基礎柔整学Ⅳ	渡辺 潤	60	2	30
	基礎柔整学Ⅴ	松田 心一	60	2	30
	基礎実技Ⅰ	松田 心一	45	1	45
	基礎実技Ⅱ	工藤 久美子	45	1	45
	基礎実技Ⅲ	片倉・松田	45	1	45
	基礎実技Ⅳ	小倉・板橋	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅰ	片倉・小倉	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅱ	小倉・板橋	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅲ	板橋・杉浦	45	1	45
	合 計			975	40

柔道整復学科・昼間1部・1年生（からだの仕組みⅠ）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>生物の基本単位である細胞は核酸、タンパク質、糖質、脂質などの生体分子により構成されている。本授業では、これら生体分子の機能を学ぶことにより、複雑で多岐にわたる人体の構造と機能を理解し、生物学についての基礎的な知識を習得することを目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概要 2. 化学および生化学の基礎 3. 細胞の構造と機能 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	人体の概要 1	
2	人体の概要 2	
3	人体を構成する物質（無機化合物）	
4	化学結合・化学反応	
5	人体を構成する物質（糖質）	
6	人体を構成する物質（脂質）	
7	人体を構成する物質（タンパク質）	
8	人体を構成する物質（ビタミン）	
9	人体を構成する物質の代謝（エネルギー）	
10	細胞の構造と機能 1	
11	細胞の構造と機能 2	
12	遺伝子の構造と機能	
13	遺伝のしくみと遺伝病	
14	老化と寿命	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（からだの仕組みⅡ）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>生物の基本単位である細胞は核酸、タンパク質、糖質、脂質などの生体分子により構成されている。本授業では、これら生体分子の機能を学ぶことにより、複雑で多岐にわたる人体の構造と機能を理解し、生物学についての基礎的な知識を習得することを目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する組織 2. 生殖器系 3. 人体の発生 4. 免疫のシステム 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	人体の組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	疎性結合組織	
5	軟骨組織	
6	骨組織 1	
7	骨組織 2	
8	筋組織	
9	神経組織	
10	生殖器系	
11	人体の発生 1	
12	人体の発生 2	
13	免疫のシステム 1	
14	免疫のシステム 2	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（からだの仕組みⅢ）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>柔道整復師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。 そこで本授業では、体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>本授業では、以下の内容について講義するが、受講にあたっては、①人体を構成する骨および骨の部位の名称、および②人体の主要な骨格筋の名称および起始・停止・作用に関する基礎知識が要求されるので、事前にしっかりと予習しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表（皮膚） 2. 頭顔面部 3. 頸 部 4. 体 幹 5. 上 肢 6. 下 肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 第2～9回については、各授業の終わりに、その日に行った授業に関する小テストを行い、全8回の小テストを50点に換算、期末試験を50点とし、両者を合計した100点満点で成績を評価する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	体表	
2	頭部顔面	
3		
4	頸部	
5		
6	体幹	
7		
8	上肢	
9		
10		
11	下肢	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（からだの働き I）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に泌尿器系および生殖器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系の構造と機能 2. 腎臓と働きと尿生成 3. 泌尿器系の一般的な作用機序 4. 生殖器系の構造と機能 5. 男性の生殖器 6. 女性の生殖器 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 第 2～9 回については、各授業の終わりに、その日に行った授業に関する小テストを行い、全 8 回の小テストを 50 点に換算、期末試験を 50 点とし、両者を合計した 100 点満点で成績を評価する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	泌尿器系の構造と機能	
2	腎臓と働きと尿生成	
3		
4	泌尿器系の一般的な作用機序	
5		
6	生殖器系の構造と機能	
7		
8	男性の生殖器	
9		
10		
11	女性の生殖器	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生(からだの働き II)

担当教員	山本 恒之	単位・時間	2 単位・30 時間 (15 コマ)
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能 2. 肺胞におけるガス交換・換気量 3. ホルモンの一般的な作用機序 4. 各ホルモンの作用 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	解剖学, 生理学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	呼吸器の構造と機能	
2	鼻腔・咽頭・喉頭の肉眼解剖	
3	咽頭・喉頭における筋・神経調節	
4	気管・気管支・肺の肉眼解剖と組織像	
5	呼吸を調節する仕組み	
6	肺胞におけるガス交換・換気量	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（呼吸器系）	呼吸器系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
8	内分泌腺およびホルモンの組織像・一般的生理機能	
9	視床下部・脳下垂体・(副)甲状腺のホルモン	
10	消化管ホルモン・膵臓のホルモンおよび血糖値	
11	腎臓・副腎のホルモン I・II	
12	生殖器と性ホルモン I・II	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（内分泌系）	内分泌系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

(試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。)

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（外国語）

担当教員	及川 陽子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>英語という言語を使っての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。 具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で 「英語を聞く」 「英語を読む」 「英語を話す」練習をする。</p> <p>「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiromi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	はじめに・自己紹介する・挨拶する	
2	案内は分かりやすくする	
3	個人情報を聞きとり管理する	
4	指示や依頼をする	
5	相手を見て対応する	
6	確認・質問事項を準備する	
7	アレルギーや紹介状の有無を確認する	
8	行為をうながす	
9	的確な指示のもとで援助する	
10	説明は丁寧にする	
11	食物摂取は治療の一環と心得る	
12	患者の言うことに耳を傾ける	
13	電話対応は短くする	
14	会計に関する質問に答える	
15	筆記試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（健康科学）

担当教員	山下 薫	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯を送りたいとの願いは誰もが持っている。日々の生活に潤いと充実感をもたらす、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業でのストレッチングはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果を上げている。目的に合った正しいストレッチングを理解させ、習得させることを指導方針とする。</p>		
授業内容	<p>学年の年齢構成や男女混成であること、施設が柔道室であることを考慮し、ストレッチングの基本的な知識・技術の習得を行う。また、ボール運動を通して、体幹トレーニング及び事前事後のストレッチングを体験させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレッチングの基本編 2. ストレッチング応用編 3. ペアストレッチング 4. 障害予防の筋力トレーニング＋ストレッチング 5. 体幹トレーニング 6. シッティング・バレーボール 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間チェックを実施することがある。 ・ 成績評価については、①到達度チェックの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に評価し、判定する。・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>秀：90～100 点、優：80～89 点、良：70～79 点、可：60～69 点、不可：59 点以下</p>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	授業内容・心得等
2	ストレッチング① (手、腕、首)、シッテングバレーボール	
3	ストレッチング② (肩、背中)、シッテングバレーボール	
4	ストレッチング③ (胸、脇腹、腰)、シッテングバレーボール	
5	ストレッチング④ (股関節、お尻、太もも)、シッテングバレーボール	
6	ストレッチング⑤ (姿勢矯正、肩こり、五十肩)、シッテングバレーボール	
7	ストレッチング⑥ (腰痛、ひざ痛、冷え、便秘)、シッテングバレーボール	
8	ストレッチング⑦ (ストレス、むくみ、たるみ)、シッテングバレーボール	
9	ストレッチング⑧ (コンディショニング基本)、シッテングバレーボール	
10	ストレッチング⑨ (スポーツ全般基本)、シッテングバレーボール	
11	ストレッチング⑩ (ゴルフ、ベースボール)、シッテングバレーボール	
12	ストレッチング⑪ (サッカー、バスケット、バレー)、シッテングバレーボール	
13	ストレッチング⑫ (ダイナミックストレッチメソッド)、シッテングバレーボール	
14	ストレッチング⑬ (ペアストレッチ)、シッテングバレーボール	
15	到達度チェック	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（解剖学Ⅰ）

担当教員	岸野 庸平	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系概要 2. 骨について 3. 関節について 3. 骨格筋について 4. その他の筋について 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨	
2	骨の構造	
3	骨の部位	
4	関節	
5	関節の構造	
6	関節の役割	
7	骨格筋	
8	体幹	
9	上肢	
10	下肢	
11	その他	
12	〃	
13	復習	
14	〃	
15	期末試験（運動器）解説	
備考 必要に応じ試験を入れる		

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生(解剖学 II)

担当教員	網塚 憲生	単位・時間	2 単位・30 時間 (15 コマ)
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の基本構造・組織構造 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 感覚器 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	神経組織の基本構造と自律神経	
2	中枢神経（脳）の構造と機能	
3	中枢神経（脊髄）の構造と機能	
4	反射と伝導路	
5	末梢神経（脳神経）の分布と機能	
6	末梢神経（脊髄神経）の分布と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（神経系）	神経系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（神経系）	
9	外皮・味覚・嗅覚の感覚器	
10	視覚器の構造と機能	
11	平衡感覚器の構造と機能	
12	聴覚器の構造と機能	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（感覚器）	感覚器に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
14	国家試験対策模擬・解答解説（感覚器）	
15	期末試験	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間1部・1年生(解剖学 III)

担当教員	網塚 憲生	単位・時間	2単位・30時間(15コマ)
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に循環器系および消化器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系および消化器系の基本的組織構造 2. 心臓と刺激伝導系 3. 動脈・静脈・リンパ系(脾臓を含む) 4. 口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門 5. 唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」: 90~100点 「優」: 80~89点 「良」: 70~79点 「可」: 60~69点 「不可」: 59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血管の基本構造と組織像	
2	心臓および弁の構造と機能	
3	刺激伝導系および心臓機能の神経性調節	
4	動脈の構造と機能	
5	静脈の構造と機能	
6	リンパ系の構造と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（脈管系）	脈管系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（脈管系）	
9	粘膜の基本構造と組織像	
10	口腔と咽頭の構造と組織像	
11	食道・胃の構造と組織像	
12	小腸・大腸および消化管ホルモン	
13	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と組織像	
14	国家試験対策模擬テスト式授業（消化器系）	消化器系に関する過去の国家試験 の模擬テストの実施および解説
15	期末試験	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間1部・1年生(生理学I)

担当教員	網塚 憲生	単位・時間	2単位・30時間(15コマ)
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な生理機能、特に生体防衛および体温、血圧、電解質、血糖値などをはじめとする人体の恒常性(ホメオスタシス)を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液と血球の機能 2. 凝固系および線溶系 3. 免疫系に関する細胞・因子 4. 体液性免疫と細胞性免疫 5. アレルギー 6. 栄養と代謝 7. 体温調節 8. 血圧調節 9. 電解質調節 10. 血糖値の調節 11. 生体リズム <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」: 90~100点 「優」: 80~89点 「良」: 70~79点 「可」: 60~69点 「不可」: 59点以下 		

教科書	生理学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血液と血球	
2	凝固系および線溶系	
3	免疫系に関する細胞	
4	体液性免疫・細胞性免疫	
5	アレルギー	
6	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	免疫系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
7	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	
8	栄養と代謝	
9	体温調節・血圧調節	
10	電解質調節・血糖値調節	
11	生体リズム	
12	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	人体の恒常性に関する過去の国家 試験の模擬テストの実施・解説
13	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（柔道 I）

担当教員	八重樫・大村・松田	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道小史、受身	
2	出足払、膝車、支釣込足	
3	浮き落とし	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	投の形、打ち込み、投げ込み	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔整学 I）

担当教員	杉浦 透	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 骨の損傷（骨折） 3. 関節の損傷（捻挫） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道整復術に関する運動器の基礎	
2	柔道整復術に関する運動器の基礎	
3	骨の損傷（概説）	
4	骨の損傷（分類）	
5	骨の損傷（分類）	
6	骨の損傷（分類）	
7	中間試験	
8	中間試験解説	
9	骨の損傷（症状・合併症）	
10	骨の損傷（症状・合併症）	
11	骨の損傷（症状・合併症）	
12	骨の損傷（症状・合併症）	
13	骨の損傷（症状・合併症）	
14	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
15	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
16	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
17	中間試験	
18	中間試験解説	
19	骨の損傷（治癒過程）	
20	骨の損傷（治癒過程）	
21	関節の損傷（概説）	
22	関節の損傷（分類）	
23	関節の損傷（分類）	
24	中間試験	
25	中間試験解説	
26	総合復習	
27	総合復習	
28	総合復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔整学Ⅱ）

担当教員	杉浦 透	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脱臼 2. 各組織の損傷（筋・腱） 3. 各組織の損傷（神経・血管・リンパ管） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	関節の解剖および構造	
2	〃	
3	脱臼の分類	
4	〃	
5	〃	
6	脱臼の症状	
7	〃	
8	〃	
9	脱臼の合併症	
10	〃	
11	〃	
12	脱臼の整復障害	
13	〃	
14	〃	
15	中間試験	
16	中間試験解説	
17	筋・腱の損傷	
18	〃	
19	〃	
20	〃	
21	神経・血管・リンパ管の損傷	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	総復習	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔整学Ⅲ）

担当教員	工藤 久美子	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 骨折 3. 捻挫 4. 脱臼 5. 軟部組織の損傷（筋・腱・神経・血管・リンパ管） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	業務範囲と心得	
2	柔道整復術とは（概論）	
3	〃	
4	骨損傷の分類	
5	〃	
6	骨折の症状	
7	〃	
8	骨折の合併症	
9	〃	
10	小児骨折・高齢斜骨折の特徴	
11	〃	
12	骨折の癒合日数・治癒経過	
13	〃	
14	骨折の予後・治癒に影響を与える因子	
15	〃	
16	中間試験	
17	中間試験解説	
18	脱臼の分類	
19	〃	
20	脱臼の症状・合併症	
21	〃	
22	脱臼の整復障害・経過と予後	
23	〃	
24	各組織の損傷	
25	〃	
26	総復習	
27	総復習	
28	総復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（基礎柔整学Ⅳ）

担当教員	渡辺 潤	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を理解するにおいて、解剖学(とくに機能解剖学、運動学)での十分な知識が必須の前提であることは明白である。しかし解剖学では圧倒的な量の名称と事実を相手にしなければならず、医学を初めて学ぶものにとってはその困難は大きなものである。ここでは、とくに柔道整復学の基礎的理解に必要な解剖学のテーマを整理し、基礎柔道整復学講義の進度に沿って学習する。</p>		
授業内容	<p>次の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表解剖、目印、基準線 2. 骨、筋、関節の基本的構造と機能 3. 生体力学の原則 4. 上肢の筋と関節の相互作用 5. 下肢の筋と関節の相互作用 6. 体幹の筋と関節の相互作用 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験や小テストなどを実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	体表解剖、目印、基準線	
2	〃	
3	〃	
4	骨、筋、関節の基本的構造と機能	
5	〃	
6	〃	
7	生体力学の原則、その他	
8	〃	
9	中間試験	
10	中間試験解説	
11	上肢の筋と関節の相互作用	
12	〃	
13	〃	
14	下肢の筋と関節の相互作用	
15	〃	
16	〃	
17	体幹の筋と関節の相互作用	
18	〃	
19	〃	
20	中間試験	
21	総合復習	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	〃	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔整学Ⅴ）

担当教員	松田 心一	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。基礎柔道整復学として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷の保存療法 2. 外傷の保存療法の期間 3. 外傷の保存療法の経過 4. 治療の判定基準 5. 治療の判定基準の実際 6. 評価法 7. 指導管理法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	外傷の保存療法について	
2	〃	
3	保存療法の種類	
4	保存療法の注意	
5	〃	
6	〃	
7	治療における指導管理	
8	〃	
9	〃	
10	外傷の保存療法の期間と経過	
11	〃	
12	〃	
13	中間試験	
14	中間試験解説	
15	治療の判定	
16	〃	
17	〃	
18	治療の評価	
19	〃	
20	〃	
21	治療における指導管理	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	総合復習	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（基礎実技Ⅰ）

担当教員	松田・大島	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定 2. 固定材料の種類 3. 上手な巻軸帯の巻き方と注意事項 4. 基本包帯法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	包帯固定の目的, 範囲、肢位	
2	巻軸帯の巻き方と注意事項	
3	基本包帯法 環行、螺旋	
4	試験	
5	蛇行帯、折転帯、亀甲帯	
6	〃	
7	〃	
8	試験	
9	麦穂帯、折り返し巻き、三角巻き	
10	〃	
11	〃	
12	試験	
13	〃	
14	〃	
15	部位別包帯法 上肢	
16	〃	
17	〃	
18	〃	
19	総合復習	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（基礎実技Ⅱ）

担当教員	工藤・大島	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冠名包帯法 2. 部位別包帯法 3. その他の包帯法 4. 三角筋による堤肘 5. 晒しによる固定 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	全国柔道整復学校協会
	出版社名	南江堂
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	冠名包帯法 デゾー包帯	
2	〃	
3	〃	
4	ジュール包帯	
5	〃	
6	〃	
7	ウェルボー包帯	
8	〃	
9	〃	
10	部位別包帯法 頭部、顔面	
11	〃	
12	部位別包帯法 体幹	
13	〃	
14	部位別包帯法 下肢	
15	〃	
16	総合復習	
17	〃	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（基礎実技Ⅲ）

担当教員	杉浦・片倉	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は実技を主体とし副子、ギプス、などの硬性材料も取り入れ、より臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定材料の作製と固定例 2. 厚紙副子固定 3. クラメル固定 4. アルミ副子固定 5. 吸水ギプス固定 6. その他の硬性材料による固定 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	包帯固定学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	三角巾	
2	さらし	
3	厚紙副子（手関節）	
4	〃	
5	クラーメル（肘関節）	
6	〃	
7	アルミ（示指・中指・環指）	
8	〃	
9	U字キャスト（足関節）	
10	〃	
11	サムスプリント（母指）	
12	〃	
13	ポリキャスト（リスフラン関節）	
14	〃	
15	キャストライト（上肢）	
16	〃	
17	硬性材料の応用	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間1部・1年生（基礎実技Ⅳ）

担当教員	小倉・板橋	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は実技を主体としテーピングを用いて、より臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーピングの概要 2. テーピングの種類 3. 基本テーピング法 4. 部位別テーピング法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	包帯固定学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	テーピングの基礎知識	
2	テーピングの種類・扱い方	
3	基本的なテーピング法	
4	部位別テーピング（手関節）	
5	〃	
6	部位別テーピング（肘関節）	
7	〃	
8	部位別テーピング（肩関節）	
9	〃	
10	中間試験	
11	〃	
12	部位別テーピング（膝関節）	
13	〃	
14	部位別テーピング（足関節）	
15	〃	
16	総合復習	
17	〃	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔道整復実技 I）

担当教員	板橋・片倉	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の診察のチェックポイント、触診法、各種テスト法とテーピングによる固定法を学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 2. 下肢の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 3. 体幹の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	上肢の解剖学的構造	
2	〃	
3	手技療法および運動療法	
4	〃	
5	上肢の診察チェックポイント	
6	〃	
7	手技療法および運動療法	
8	〃	
9	上肢の触診法、検査法、固定法	
10	〃	
11	手技療法および運動療法	
12	〃	
13	下肢の解剖学的構造	
14	〃	
15	下肢の診察チェックポイント	
16	〃	
17	総合復習	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔道整復実技Ⅱ）

担当教員	小倉・工藤	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の計測法を学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体計測の概要 2. 上肢の計測法 3. 下肢の計測法 4. 体幹の計測法 5. 関節可動域の測定法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	身体計測の概要	
2	上肢の計測法	
3	〃	
4	下肢の計測法	
5	〃	
6	体幹の計測法	
7	〃	
8	関節可動域の測定法	
9	〃	
10	手技療法および運動療法	
11	〃	
12	体幹の解剖学的構造	
13	〃	
14	手技療法および運動療法	
15	〃	
16	体幹の診察チェックポイント	
17	〃	
18	体幹の触診法、検査法、固定法	
19	手技療法および運動療法	
20	総合復習	
21	〃	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間 1 部・1 年生（基礎柔道整復実技Ⅲ）

担当教員	板橋・八重樫・松田・大村	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の触診法、手技療法、および高齢者に対する機能訓練等について学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 触診法 2. 手技療法 3. 運動療法 4. 高齢者の機能訓練法 5. 柔道実技 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	体表解剖	5回の柔道実技を含む
2	手技療法の基本	
3		
4	手技療法の応用	
5		
6	運動療法について	
7		
8	運動療法の基本・注意点	
9		
10	運動療法の実際	
11		
12	手技療法と運動療法	
13		
14	手技療法と運動療法の応用	
15		
16	高齢者の機能訓練	
17		
18	総合復習	
19		
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間2部（1年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
基礎分野	からだの仕組みⅠ	瀧田 裕子	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	瀧田 裕子	30	2	15
	からだの仕組みⅢ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの働きⅠ	今野 幸太郎	30	2	15
	からだの働きⅡ	長谷川 智香	30	2	15
	外国語	及川 陽子	30	2	15
	健康科学	山下 薫	30	2	15
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	岸野 庸平	30	2	15
	解剖学Ⅱ	長谷川 智香	30	2	15
	解剖学Ⅲ	長谷川 智香	30	2	15
	生理学Ⅰ	長谷川 智香	30	2	15
	柔道Ⅰ	八重樫・大村	30	1	15
専門分野	基礎柔整学Ⅰ	杉浦 透	60	2	30
	基礎柔整学Ⅱ	杉浦 透	60	2	30
	基礎柔整学Ⅲ	工藤 久美子	60	2	30
	基礎柔整学Ⅳ	渡辺 潤	60	2	30
	基礎柔整学Ⅴ	松田 心一	60	2	30
	基礎実技Ⅰ	松田 心一	45	1	45
	基礎実技Ⅱ	大島 康宏	45	1	45
	基礎実技Ⅲ	片倉 弘隆	45	1	45
	基礎実技Ⅳ	小倉 秀樹	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅰ	片倉 弘隆	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅱ	小倉 秀樹	45	1	45
	基礎柔道整復実技Ⅲ	板橋・八重樫・大村	45	1	45
	合 計			975	40

柔道整復学科・昼間2部・1年生（からだの仕組み I）

担当教員	瀧田 裕子	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	この授業でからだの基礎的なしくみを学ぶことにより、からだの構造と機能について理解を深める。また再生医療などの最先端の生命科学に関連するニュースなどについてその背景も含めて、現状を正しく把握する力をつけていく。		
授業内容	以下の項目について講義する 1. からだの構造と基礎的なしくみ 2. からだの設計図 3. からだを維持するしくみ 4. からだを構成する物質 5. からだの寿命		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験成績を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	生物とは、生命とは	
2	からだの構造	
3	細胞とは	
4	細胞内小器官	
5	DNA の構造とセントラルドグマ	
6	からだの設計図 (ゲノム)	
7	からだを維持するしくみ1	
8	からだを維持するしくみ2	
9	からだを構成する物質 (糖質)	
10	からだを構成する物質 (脂質)	
11	からだを構成する物質 (タンパク質)	
12	からだを構成する物質 (ビタミン・ミネラル)	
13	からだの寿命	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（からだの仕組み II）

担当教員	瀧田 裕子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>からだの仕組み I で学んだことを基礎にし、からだの組織について学習する。それにより複雑で多肢にわたるからだの機能について理解を深める。また受精とヒトの発生のしくみ、外敵に対する生体防御のしくみについて学び、医療専門分野に進む前の基礎知識を習得する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだを構成する組織（上皮・結合・筋肉・神経） 2. ヒトの受精 3. ヒトの発生 4. からだを外敵から守るしくみ 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては試験の成績を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	結合組織 1	
5	結合組織 2	
6	筋組織 1	
7	筋組織 2	
8	神経組織 1	
9	神経組織 2	
10	ヒトの受精	
11	ヒトの発生	
12	生体防御のしくみ 1	
13	生体防御のしくみ 2	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（からだの仕組みⅢ）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。 そこで本授業では、体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>本授業では、以下の内容について講義するが、受講にあたっては、①人体を構成する骨および骨の部位の名称、および②人体の主要な骨格筋の名称および起始・停止・作用に関する基礎知識が要求されるので、事前にしっかりと予習しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表（皮膚） 2. 頭顔面部 3. 頸 部 4. 体 幹 5. 上 肢 6. 下 肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 第 2～9 回については、各授業の終わりに、その日に行った授業に関する小テストを行い、全 8 回の小テストを 50 点に換算、期末試験を 50 点とし、両者を合計した 100 点満点で成績を評価する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	体表	
2	頭部顔面	
3		
4	頸部	
5		
6	体幹	
7		
8	上肢	
9		
10		
11	下肢	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（からだの働き I）

担当教員	今野 幸太郎	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に泌尿器系および生殖器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系の構造と機能 2. 腎臓と働きと尿生成 3. 泌尿器系の一般的な作用機序 4. 生殖器系の構造と機能 5. 男性の生殖器 6. 女性の生殖器 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 第 2～9 回については、各授業の終わりに、その日に行った授業に関する小テストを行い、全 8 回の小テストを 50 点に換算、期末試験を 50 点とし、両者を合計した 100 点満点で成績を評価する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	泌尿器系の構造と機能	
2	腎臓と働きと尿生成	
3		
4	泌尿器系の一般的な作用機序	
5		
6	生殖器系の構造と機能	
7		
8	男性の生殖器	
9		
10		
11	女性の生殖器	
12		
13		
14	期末試験	
15	期末解説	

柔道整復学科・昼間2部・1年生(からだの働き II)

担当教員	長谷川 智香	単位・時間	2単位・30時間(15コマ)
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能 2. 肺胞におけるガス交換・換気量 3. ホルモンの一般的な作用機序 4. 各ホルモンの作用 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」: 90~100点 「優」: 80~89点 「良」: 70~79点 「可」: 60~69点 「不可」: 59点以下 		

教科書	解剖学, 生理学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	呼吸器の構造と機能	
2	鼻腔・咽頭・喉頭の肉眼解剖	
3	咽頭・喉頭における筋・神経調節	
4	気管・気管支・肺の肉眼解剖と組織像	
5	呼吸を調節する仕組み	
6	肺胞におけるガス交換・換気量	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（呼吸器系）	呼吸器系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
8	内分泌腺およびホルモンの組織像・一般的生理機能	
9	視床下部・脳下垂体・(副)甲状腺のホルモン	
10	消化管ホルモン・膵臓のホルモンおよび血糖値	
11	腎臓・副腎のホルモン I・II	
12	生殖器と性ホルモン I・II	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（内分泌系）	内分泌系に関する過去の国家試験の模擬テストの実施および解説
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

(試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。)

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（外国語）

担当教員	及川 陽子	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>英語という言語を使っての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。 具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で 「英語を聞く」 「英語を読む」 「英語を話す」練習をする。</p> <p>「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiromi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	はじめに・自己紹介する・挨拶する	
2	案内は分かりやすくする	
3	個人情報を聞きとり管理する	
4	指示や依頼をする	
5	相手を見て対応する	
6	確認・質問事項を準備する	
7	アレルギーや紹介状の有無を確認する	
8	行為をうながす	
9	的確な指示のもとで援助する	
10	説明は丁寧にする	
11	食物摂取は治療の一環と心得る	
12	患者の言うことに耳を傾ける	
13	電話対応は短くする	
14	会計に関する質問に答える	
15	筆記試験	

柔道整復学科・昼間2部・1年生（健康科学）

担当教員	山下 薫	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯を送りたいとの願いは誰もが持っている。日々の生活に潤いと充実感をもたらす、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業でのストレッチングはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果を上げている。目的に合った正しいストレッチングを理解させ、習得させることを指導方針とする。</p>		
授業内容	<p>学年の年齢構成や男女混成であること、施設が柔道室であることを考慮し、ストレッチングの基本的な知識・技術の習得を行う。また、ボール運動を通して、体幹トレーニング及び事前事後のストレッチングを体験させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレッチングの基本編 2. ストレッチング応用編 3. ペアストレッチング 4. 障害予防の筋力トレーニング+ストレッチング 5. 体幹トレーニング 6. シッティング・バレーボール 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間チェックを実施することがある。 ・ 成績評価については、①到達度チェックの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に評価し、判定する。・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>秀：90～100点、優：80～89点、良：70～79点、可：60～69点、不可：59点以下</p>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	授業内容・心得等
2	ストレッチング① (手、腕、首)、シッテングハレボール	
3	ストレッチング② (肩、背中)、シッテングハレボール	
4	ストレッチング③ (胸、脇腹、腰)、シッテングハレボール	
5	ストレッチング④ (股関節、お尻、太もも)、シッテングハレボール	
6	ストレッチング⑤ (姿勢矯正、肩こり、五十肩)、シッテングハレボール	
7	ストレッチング⑥ (腰痛、ひざ痛、冷え、便秘)、シッテングハレボール	
8	ストレッチング⑦ (ストレス、むくみ、たるみ)、シッテングハレボール	
9	ストレッチング⑧ (コンディショニング基本)、シッテングハレボール	
10	ストレッチング⑨ (スポーツ全般基本)、シッテングハレボール	
11	ストレッチング⑩ (ゴルフ、ベースボール)、シッテングハレボール	
12	ストレッチング⑪ (サッカー、バスケット、バレー)、シッテングハレボール	
13	ストレッチング⑫ (ダイナミックストレッチメソッド)、シッテングハレボール	
14	ストレッチング⑬ (ペアストレッチ)、シッテングハレボール	
15	到達度チェック	

柔道整復学科・昼間2部・1年生（解剖学Ⅰ）

担当教員	岸野 庸平	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系概要 2. 骨について 3. 関節について 3. 骨格筋について 4. その他の筋について 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨	
2	骨の構造	
3	骨の部位	
4	関節	
5	関節の構造	
6	関節の役割	
7	骨格筋	
8	体幹	
9	上肢	
10	下肢	
11	その他	
12	〃	
13	復習	
14	〃	
15	期末試験（運動器）解説	
備考 必要に応じ試験を入れる		

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生(解剖学 II)

担当教員	長谷川 智香	単位・時間	2 単位・30 時間 (15 コマ)
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の基本構造・組織構造 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 感覚器 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	神経組織の基本構造と自律神経	
2	中枢神経（脳）の構造と機能	
3	中枢神経（脊髄）の構造と機能	
4	反射と伝導路	
5	末梢神経（脳神経）の分布と機能	
6	末梢神経（脊髄神経）の分布と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（神経系）	神経系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（神経系）	
9	外皮・味覚・嗅覚の感覚器	
10	視覚器の構造と機能	
11	平衡感覚器の構造と機能	
12	聴覚器の構造と機能	
13	国家試験対策模擬テスト式授業（感覚器）	感覚器に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
14	国家試験対策模擬・解答解説（感覚器）	
15	期末試験	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生(解剖学 III)

担当教員	長谷川 智香	単位・時間	2 単位・30 時間 (15 コマ)
教育目標	<p>この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に循環器系および消化器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系および消化器系の基本的組織構造 2. 心臓と刺激伝導系 3. 動脈・静脈・リンパ系（脾臓を含む） 4. 口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門 5. 唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓 <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	解剖学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血管の基本構造と組織像	
2	心臓および弁の構造と機能	
3	刺激伝導系および心臓機能の神経性調節	
4	動脈の構造と機能	
5	静脈の構造と機能	
6	リンパ系の構造と機能	
7	国家試験対策模擬テスト式授業（脈管系）	脈管系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
8	国家試験対策模擬・解答解説（脈管系）	
9	粘膜の基本構造と組織像	
10	口腔と咽頭の構造と組織像	
11	食道・胃の構造と組織像	
12	小腸・大腸および消化管ホルモン	
13	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と組織像	
14	国家試験対策模擬テスト式授業（消化器系）	消化器系に関する過去の国家試験 の模擬テストの実施および解説
15	期末試験	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生(生理学 I)

担当教員	長谷川 智香	単位・時間	2 単位・30 時間 (15 コマ)
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である 1 年次学生が、人体の正常な生理機能、特に生体防衛および体温、血圧、電解質、血糖値などをはじめとする人体の恒常性（ホメオスタシス）を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液と血球の機能 2. 凝固系および線溶系 3. 免疫系に関する細胞・因子 4. 体液性免疫と細胞性免疫 5. アレルギー 6. 栄養と代謝 7. 体温調節 8. 血圧調節 9. 電解質調節 10. 血糖値の調節 11. 生体リズム <p>*授業の前・後に小テストを行うことがある。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等、④小テストの成績を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	生理学	著者名	医歯薬出版・南江堂
		出版社名	全国柔道整復学校協会
参考書	プリントを配布するので、教科書の内容に加えて勉強すること	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血液と血球	
2	凝固系および線溶系	
3	免疫系に関する細胞	
4	体液性免疫・細胞性免疫	
5	アレルギー	
6	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	免疫系に関する過去の国家試験の 模擬テストの実施および解説
7	国家試験対策模擬テスト式授業（免疫系）	
8	栄養と代謝	
9	体温調節・血圧調節	
10	電解質調節・血糖値調節	
11	生体リズム	
12	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	人体の恒常性に関する過去の国家 試験の模擬テストの実施・解説
13	国家試験対策模擬テスト式授業（人体の恒常性）	
14	期末試験	
15	期末試験 解答・解説	

（試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。）

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（柔道 I）

担当教員	八重樫・大村・松田	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道小史、受身	
2	出足払、膝車、支釣込足	
3	浮き落とし	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	投の形、打ち込み、投げ込み	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎柔整学 I）

担当教員	杉浦 透	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいうまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 骨の損傷（骨折） 3. 関節の損傷（捻挫） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道整復術に関する運動器の基礎	
2	柔道整復術に関する運動器の基礎	
3	骨の損傷（概説）	
4	骨の損傷（分類）	
5	骨の損傷（分類）	
6	骨の損傷（分類）	
7	中間試験	
8	中間試験解説	
9	骨の損傷（症状・合併症）	
10	骨の損傷（症状・合併症）	
11	骨の損傷（症状・合併症）	
12	骨の損傷（症状・合併症）	
13	骨の損傷（症状・合併症）	
14	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
15	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
16	骨の損傷（小児老人の特徴・治癒過程）	
17	中間試験	
18	中間試験解説	
19	骨の損傷（治癒過程）	
20	骨の損傷（治癒過程）	
21	関節の損傷（概説）	
22	関節の損傷（分類）	
23	関節の損傷（分類）	
24	中間試験	
25	中間試験解説	
26	総合復習	
27	総合復習	
28	総合復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎柔整学Ⅱ）

担当教員	杉浦 透	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脱臼 2. 各組織の損傷（筋・腱） 3. 各組織の損傷（神経・血管・リンパ管） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	関節の解剖および構造	
2	〃	
3	脱臼の分類	
4	〃	
5	〃	
6	脱臼の症状	
7	〃	
8	〃	
9	脱臼の合併症	
10	〃	
11	〃	
12	脱臼の整復障害	
13	〃	
14	〃	
15	中間試験	
16	中間試験解説	
17	筋・腱の損傷	
18	〃	
19	〃	
20	〃	
21	神経・血管・リンパ管の損傷	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	総復習	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間2部・1年生（基礎柔整学Ⅲ）

担当教員	工藤 久美子	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復師を目指すものにとって柔道整復学は欠くことのできない分野であることはいまでもない。特に基礎柔整は次に学ぶ各論に移る際、理解への足がかりになるものである。柔道整復術の歴史や定義、意義および社会的役割を理解し医療界に貢献できるような人格をもった人間形成を目指すことを目的とする。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置づけから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。そのため、業務範囲や今後の方向付けあるいは業務の正しい理解を促すため教科書を元にした講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 骨折 3. 捻挫 4. 脱臼 5. 軟部組織の損傷（筋・腱・神経・血管・リンパ管） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	業務範囲と心得	
2	柔道整復術とは（概論）	
3	〃	
4	骨損傷の分類	
5	〃	
6	骨折の症状	
7	〃	
8	骨折の合併症	
9	〃	
10	小児骨折・高齢斜骨折の特徴	
11	〃	
12	骨折の癒合日数・治癒経過	
13	〃	
14	骨折の予後・治癒に影響を与える因子	
15	〃	
16	中間試験	
17	中間試験解説	
18	脱臼の分類	
19	〃	
20	脱臼の症状・合併症	
21	〃	
22	脱臼の整復障害・経過と予後	
23	〃	
24	各組織の損傷	
25	〃	
26	総復習	
27	総復習	
28	総復習	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎柔整学Ⅳ）

担当教員	渡辺 潤	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を理解するにおいて、解剖学(とくに機能解剖学、運動学)での十分な知識が必須の前提であることは明白である。しかし解剖学では圧倒的な量の名称と事実を相手にしなければならず、医学を初めて学ぶものにとってはその困難は大きなものである。ここでは、とくに柔道整復学の基礎的理解に必要な解剖学のテーマを整理し、基礎柔道整復学講義の進度に沿って学習する。</p>		
授業内容	<p>次の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表解剖、目印、基準線 2. 骨、筋、関節の基本的構造と機能 3. 生体力学の原則 4. 上肢の筋と関節の相互作用 5. 下肢の筋と関節の相互作用 6. 体幹の筋と関節の相互作用 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験や小テストなどを実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	体表解剖、目印、基準線	
2	〃	
3	〃	
4	骨、筋、関節の基本的構造と機能	
5	〃	
6	〃	
7	生体力学の原則、その他	
8	〃	
9	中間試験	
10	中間試験解説	
11	上肢の筋と関節の相互作用	
12	〃	
13	〃	
14	下肢の筋と関節の相互作用	
15	〃	
16	〃	
17	体幹の筋と関節の相互作用	
18	〃	
19	〃	
20	中間試験	
21	総合復習	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	〃	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎柔整学Ⅴ）

担当教員	松田 心一	単位・時間	2 単位・60 時間（30 コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。基礎柔道整復学として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷の保存療法 2. 外傷の保存療法の期間 3. 外傷の保存療法の経過 4. 治療の判定基準 5. 治療の判定基準の実際 6. 評価法 7. 指導管理法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	

回	講義内容	備考
1	外傷の保存療法について	
2	〃	
3	保存療法の種類	
4	保存療法の注意	
5	〃	
6	〃	
7	治療における指導管理	
8	〃	
9	〃	
10	外傷の保存療法の期間と経過	
11	〃	
12	〃	
13	中間試験	
14	中間試験解説	
15	治療の判定	
16	〃	
17	〃	
18	治療の評価	
19	〃	
20	〃	
21	治療における指導管理	
22	〃	
23	〃	
24	〃	
25	〃	
26	総合復習	
27	〃	
28	〃	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎実技 I）

担当教員	松田 心一	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定 2. 固定材料の種類 3. 上手な巻軸帯の巻き方と注意事項 4. 基本包帯法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書		著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	包帯固定の目的, 範囲、肢位	
2	巻軸帯の巻き方と注意事項	
3	基本包帯法 環行、螺旋	
4	試験	
5	蛇行帯、折転帯、亀甲帯	
6	〃	
7	〃	
8	試験	
9	麦穂帯、折り返し巻き、三角巻き	
10	〃	
11	〃	
12	試験	
13	〃	
14	〃	
15	部位別包帯法 上肢	
16	〃	
17	〃	
18	〃	
19	総合復習	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎実技Ⅱ）

担当教員	大島 康宏	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冠名包帯法 2. 部位別包帯法 3. その他の包帯法 4. 三角筋による堤肘 5. 晒しによる固定 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	著者名	全国柔道整復学校協会
	出版社名	南江堂
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	冠名包帯法 デゾー包帯	
2	〃	
3	〃	
4	ジュール包帯	
5	〃	
6	〃	
7	ウェルボー包帯	
8	〃	
9	〃	
10	部位別包帯法 頭部、顔面	
11	〃	
12	部位別包帯法 体幹	
13	〃	
14	部位別包帯法 下肢	
15	〃	
16	総合復習	
17	〃	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎実技Ⅲ）

担当教員	片倉 弘隆	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は実技を主体とし副子、ギプス、などの硬性材料も取り入れ、より臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定材料の作製と固定例 2. 厚紙副子固定 3. クラメル固定 4. アルミ副子固定 5. 吸水ギプス固定 6. その他の硬性材料による固定 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	包帯固定学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	三角巾	
2	さらし	
3	厚紙副子（手関節）	
4	〃	
5	クラーメル（肘関節）	
6	〃	
7	アルミ（示指・中指・環指）	
8	〃	
9	U字キャスト（足関節）	
10	〃	
11	サムスプリント（母指）	
12	〃	
13	ポリキャスト（リスフラン関節）	
14	〃	
15	キャストライト（上肢）	
16	〃	
17	硬性材料の応用	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間 2 部・1 年生（基礎実技Ⅳ）

担当教員	小倉 秀樹	単位・時間	1 単位・45 時間（22.5 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学を学ぶ上で骨折などの整復位をいかに保持するかが重要である。患部を毎日観察し腫脹の状態によって調節し、緩まず確実に合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。ギプスと異なる独特の技術に基づく「柔道整復師の包帯法」を臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は実技を主体としテーピングを用いて、より臨床に即した講義とする方針である。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について実技演習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーピングの概要 2. テーピングの種類 3. 基本テーピング法 4. 部位別テーピング法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	包帯固定学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	テーピングの基礎知識	
2	テーピングの種類・扱い方	
3	基本的なテーピング法	
4	部位別テーピング（手関節）	
5	〃	
6	部位別テーピング（肘関節）	
7	〃	
8	部位別テーピング（肩関節）	
9	〃	
10	中間試験	
11	〃	
12	部位別テーピング（膝関節）	
13	〃	
14	部位別テーピング（足関節）	
15	〃	
16	総合復習	
17	〃	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間2部・1年生（基礎柔道整復実技Ⅰ）

担当教員	片倉 弘隆	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の診察のチェックポイント、触診法、各種テスト法とテーピングによる固定法を学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 2. 下肢の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 3. 体幹の診察のチェックポイント、周辺解剖の触診法、検査法、固定法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	上肢の解剖学的構造	
2	〃	
3	手技療法および運動療法	
4	〃	
5	上肢の診察チェックポイント	
6	〃	
7	手技療法および運動療法	
8	〃	
9	上肢の触診法、検査法、固定法	
10	〃	
11	手技療法および運動療法	
12	〃	
13	下肢の解剖学的構造	
14	〃	
15	下肢の診察チェックポイント	
16	〃	
17	総合復習	
18	〃	
19	〃	
20	実技試験	
21	実技試験	
22	実技試験	
22.5	実技試験	

柔道整復学科・昼間2部・1年生（基礎柔道整復実技Ⅱ）

担当教員	小倉 秀樹	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の計測法を学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体計測の概要 2. 上肢の計測法 3. 下肢の計測法 4. 体幹の計測法 5. 関節可動域の測定法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	身体計測の概要	
2	上肢の計測法	
3	〃	
4	下肢の計測法	
5	〃	
6	体幹の計測法	
7	〃	
8	関節可動域の測定法	
9	〃	
10	手技療法および運動療法	
11	〃	
12	体幹の解剖学的構造	
13	〃	
14	手技療法および運動療法	
15	〃	
16	体幹の診察チェックポイント	
17	〃	
18	体幹の触診法、検査法、固定法	
19	手技療法および運動療法	
20	総合復習	
21	〃	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間２部・１年生（基礎柔道整復実技Ⅲ）

担当教員	板橋・八重樫・大村	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復術では、古くから運動器すなわち骨、関節、筋、靭帯、神経の損傷に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴って、その施術対象も増加し、柔道整復師として習得すべき技術も高度化してきた。</p> <p>運動器疾患の正確で能率的な診断の基礎は、視診、問診に始まり理学的徒手検査法にある。柔道整復術の徒手検査法の習得は初期研修として意味深いものである。</p> <p>ここでは、身体各部位の触診法、手技療法、および高齢者に対する機能訓練等について学習する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 触診法 2. 手技療法 3. 運動療法 4. 高齢者の機能訓練法 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	体表解剖	5回の柔道実技を含む
2	手技療法の基本	
3		
4	手技療法の応用	
5		
6	運動療法について	
7		
8	運動療法の基本・注意点	
9		
10	運動療法の実際	
11		
12	手技療法と運動療法	
13		
14	手技療法と運動療法の応用	
15		
16	高齢者の機能訓練	
17		
18	総合復習	
19		
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

柔道整復学科・昼間部（2年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
専門基礎分野	解剖学Ⅳ	岸野庸平	30	2	15
	生理学Ⅱ	船橋誠	30	2	15
	生理学Ⅲ	船橋誠	30	2	15
	運動学	高橋尚明	30	2	15
	病理学概論	飯塚正	30	2	15
	一般臨床医学	大川原辰也	30	2	20
	外科学概論	大川原辰也	30	2	20
	整形外科学	大川原辰也	30	2	20
	公衆衛生学	本多丘人	30	2	20
	柔道Ⅱ	八重樫・大村	30	1	20
専門分野	臨床柔道整復学Ⅰ	小倉・片倉	60	2	30
	臨床柔道整復学Ⅱ	工藤・八重樫	60	2	30
	臨床柔道整復学Ⅲ	大島・板橋	60	2	30
	臨床柔道整復学Ⅳ	松田心一	60	2	30
	臨床柔道整復学Ⅴ	片倉弘隆	60	2	30
	臨床柔道整復学Ⅵ	板橋哲也	60	2	30
	基礎柔道整復実技Ⅳ	板橋哲也	45	1	22.5
	応用実技Ⅰ	板橋・杉浦	45	1	22.5
	応用実技Ⅱ	杉浦・小倉・大島・八重樫	45	1	22.5
	画像評価実技Ⅰ	松田・片倉	45	1	22.5
	総合実技Ⅰ	片倉・八重樫・大村	45	1	22.5
	臨床実習Ⅰ	小倉・片倉・八重樫	45	1	30
	臨床実習Ⅱ	工藤・大島・板橋	45	1	30
				975	38

柔道整復学科・昼間部・2年生（解剖学Ⅳ）

担当教員	岸 野 庸 平	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問あり、運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を備えていなければならない。そこで、1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする。</p>		
授業内容	<p>以下の内容について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行 9. 運動発達・運動学習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能①	
4	神経の構造と機能②	
5	運動の感覚、反射、随意運動	
6	上肢の運動器①	
7	上肢の運動器②	
8	中間試験	
9	下肢の運動器①	
10	下肢の運動器②	
11	体幹の運動器	
12	姿勢・歩行	
13	発達・学習	
14	復習とテスト対策	
15	期末テスト	

柔道整復学科・昼間部・2年生（生理学Ⅱ）

担当教員	船 橋 誠	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>1) 生理学すなわち生命（いのち）の理（ことわり）を学ぶことにより，ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2) 生理学の学習を通じて，柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>生理学は18世紀から科学的根拠に基づく学問分野（近代生理学）として大系づけられ，我々の生命の仕組みを解き明かしている。さらに，最近の生理学の研究は，生化学，分子生物学，細胞生物学などと融合して目覚ましい進歩を遂げている。本講義では生理学の各項目について日常生活でもよくある素朴な疑問から最先端の研究成果なども取り上げる。1年生で学習した生理学の内容についてさらに理解を深め，知識の定着化を計るために，狭い範囲ごとに中間試験を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	標準生理学（第6版）	著者名	本郷利憲 他3名
		出版社名	医学書院

回	講義内容	備考
1	生理学とは<生体のホメオスタシス>	
2	細胞膜	
3	血液の生理学	
4	心臓の機能	
5	血管系の構造と機能	
6	血圧、局所循環	
7	呼吸器の構造と機能	
8	換気と血液動態	
9	中間試験 1	
10	消化と吸収	
11	栄養と代謝	
12	体温とその調節	
13	腎機能	
14	排泄、再吸収、分泌	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（生理学Ⅲ）

担当教員	船 橋 誠	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	<p>1) 生理学すなわち生命（いのち）の理（ことわり）を学ぶことにより，ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2) 生理学の学習を通じて，柔道整復師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>生理学は18世紀から科学的根拠に基づく学問分野（近代生理学）として大系づけられ，我々の生命の仕組みを解き明かしている。さらに，最近の生理学の研究は，生化学，分子生物学，細胞生物学などと融合して目覚ましい進歩を遂げている。本講義では生理学の各項目について日常生活でもよくある素朴な疑問から最先端の研究成果なども取り上げる。1年生で学習した生理学の内容についてさらに理解を深め，知識の定着化を計るために，狭い範囲ごとに中間試験を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	標準生理学（第6版）	著者名	本郷利憲 他3名
		出版社名	医学書院

1	内分泌 1	
2	内分泌 2	
3	生殖機能	
4	骨の生理学	
5	体液の生理学	
6	神経の基本的機能	
7	中間試験 1	
8	神経系の機能-体性神経、自律神経-	
9	神経系の機能-中枢神経系、脳幹-	
10	神経系の機能-高次機能、脳-	
11	筋肉の機能	
12	感覚の生理学-痛覚、内臓感覚、味覚、嗅覚-	
13	感覚の生理学-視覚、聴覚、平衡感覚-	
14	脳と行動	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（運動学）

担当教員	高 橋 尚 明	単位・時間	2 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	1 年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする		
授業内容	以下の内容について講義する 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行 9. 運動発達・運動学習		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	運動学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能	
4	運動感覚・反射・随意運動	
5	上肢の運動（1）	
6	上肢の運動（2）	
7	下肢の運動（1）	
8	下肢の運動（2）	
9	体幹の運動（1）	
10	体幹の運動（2）	
11	姿勢・歩行（1）	
12	姿勢・歩行（2）	
13	姿勢・歩行（3）	
14	運動発達・運動学習	
15	試 験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（病理学概論）

担当教員	飯 塚 正	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>現在の医学は目覚ましい進歩を日々示している。この20年間にあつて、医学研究において免疫学的概念の導入と技術的發展があり、さらにこの10年間では、分子生物学といった最先端研究の進歩が医学研究の進展に寄与している。病理学も古い古典的病理学から脱皮し、新しい医学研究の一翼として、その内容や研究方法を変えつつある。こういった医学研究の進歩の著しい環境にあつて、柔道整復師を目指しているものが、病理学を通して学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように、また柔道整復術を学ぶ基礎となるように講義をすすめる方針である。</p>		
授業内容	<p>基本的には、「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する。すなわち、病理学の概略として1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 疾病各論に関する講義を行うが、病理学を学ぶ上で不可欠な解剖学、組織学、生理学などの知識についてもその概要も交えて総合的に講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 ・ 授業の進行状況等により講義内容の予定変更もある 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病理学とは・その方法について	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因、外因	
4	退行性病変 1	
5	退行性病変 2	
6	循環障害	
7	中間試験	
8	進行性病変	
9	炎症の一般・分類について	
10	免疫異常	
	自己免疫異常・アレルギーについて	
11	腫瘍 1	
12	腫瘍 2	
13	腫瘍各論、先天性異常総論・奇形	
14	運動器疾患	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（一般臨床医学）

担当教員	大川原 辰也	単位・時間	2単位・40時間（15コマ）
教育目標	<p>西洋医学は応用科学の一部門として、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。柔道整復師の教育にあっては、西洋臨床医学の占める割合はそれほど高くなく、多くの項目について詳細に言及することはできないが、一般臨床医学は日常臨床医学基礎の上、さらに各論で疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを記述した。そして、日常臨床の場において多い代表的な疾患を学ぶ、理解、習得すれば柔道整復師国家試験出題基準は満たされるものである。</p>		
授業内容	<p>全国柔道整復学校協会監修「一般臨床医学」第3版の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を統括して教示する。即ち、本教科書は「診察概論」「診察各論」「検査法」「主な疾患」の4章から構成されている。教科書に準拠して講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 授業の進行状況等によりシラバスの予定を変更することがある。（試験も含め） ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	一般臨床医学 第3版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	総論	
2	総論	
3	総論	
4	呼吸器疾患	
5	循環器疾患	
6	消化器疾患	
7	代謝疾患	
8	内分泌疾患	
9	血液・造血器疾患	
10	腎・尿路疾患	
11	神経疾患	
12	感染症	
13	リウマチ・膠原病・アレルギー	
14	環境要因による疾患	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（外科学）

担当教員	大川原 辰也	単位・時間	2単位・40時間（15コマ）
教育目標	<p>柔道整復師の教育にあつては、整形外科学以外除いては、外科学の占める割合はそれほど高くなく、多くの項目について詳細に言及することはできないが、外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常臨床の場においてフ遭遇することが多い代表的な外科疾患を学ぶ、理解、習得すれば柔道整復師国家試験出題基準は満たされるものである。さらに日常臨床の場でも使用できるように、実用的な内容にも触れ、外科的知識が役立って適切な治療ができるような柔道整復師となるように、医学的知識を植えつることを図り講義をすすめる方針である</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師養成施設指導要領」に基づき講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科学総論 2. 外科学各論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 授業の進行状況等によりシラバスの予定を変更することがある。（試験も含め） ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	外科学概論 第4版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	損傷	
2	創傷	
3	熱傷	
4	炎症と外科感染症	
5	腫瘍	
6	ショック	
7	輸血・輸液	
8	消毒と滅菌・各種手術方法	
9	麻酔	
10	移植と免疫	
11	出血と止血	
12	心肺蘇生	
13	脳神経外科	
14	腹部外科疾患	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（整形外科学）

担当教員	大川原 辰也	単位・時間	2単位・40時間（15コマ）
教育目標	<p>柔道整復学は、骨折、脱臼、打撲、捻挫等を徒手を用いて整復し、正常機能を取戻す事を主たる目的とされる事から、整形外科学の中の外傷学の保存的治療の部分と云えなくはないが、急性期疾患への取り組みを主とした整形外科的手法では解決しがたい、原因不明の慢性疾患や、精神的背景を伴う不定愁訴への取り組みも求められる事から、独自の領域を担う学問としてあるのである。取り組みの対象は「運動器」つまり骨、関節、筋、腱、靭帯、神経、血管を含む事から、整形外科学を学ぶにあたり必要となる基礎的事項は共通するものが多い。近年国民の生活様式は大きく変わり、かつ高齢化社会が急速に進み、「運動器」に何等かの障害をもつ人々が日本では約4,500万人とも推定され、生活習慣病「メタボリック症候群」に続く第2の国民病とも云われはじめている。運動器障害は人間の日常生活の質（QOL）を著しく低下させる事から、それを治療、支援する整形外科学、そして柔道整復学の重要性はますます増してきていると云える。この視点に立って学生諸君と共に学びたい。</p>		
授業内容	<p>教材：整形外科学（第4版 南江堂）を基本にすえ、日常遭遇することが多いと考えられる事例を担当教員の経験に照らし、できるだけ具体的に基礎的事項を軸にして授業をすすめたい。 傾聴を願いたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 授業の進行状況等によりシラバスの予定を変更することがある。（試験も含め） ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	整形外科学 第4版	著者名	
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器の基礎知識・診察法・検査法	
2	治療法・スポーツ整形外科・リハビリテーション	
3	疾患別各論	
4		
5		
6		
7		
8		
9		身体部位別各論
10		
11		
12		
13		
14		
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（公衆衛生学）

担当教員	本多 丘人	単位・時間	2単位・30時間（15コマ）
教育目標	<p>最終学年になり医学の基礎もかなり身に付いたことと思うが、ここで公衆衛生学を学習したい。</p> <p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布するので、資料は生理して保存しておいてほしい。</p> <p>授業は過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。また後期に始まる統合基礎医学でもさらに理解を深めていきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	シンプル衛生公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂
参考書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	第1・2章 公衆衛生学と健康	
2	第3章 疾病予防と健康	
3	第4章 感染症	
4	第5章 消毒	
5	第6章 環境保健	
6	第1回試験	60点未満の者は再試験を行う。
7	第7章 母子保健	
8	第8章 学校保健 第9章 産業保健	
9	第10章 成人・老人保健	
10	第11章 精神保健	
11	第12章 生活環境・食品衛生	
12	第13章 地域保健と国際保健	
13	第14章 衛生行政と保健医療	
14	第15章 疫学	
15	第2回試験	60点未満の者は再試験を行う。

(授業の進行度等により予定の変更有り)

柔道整復学科・昼間部・2年生（柔道Ⅱ）

担当教員	八重樫・大村	単位・時間	1 単位・30 時間（15 コマ）
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道小史、受身	
2	出足払、膝車、支釣込足	
3	浮き落とし	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	投の形、打ち込み、投げ込み	
15	期末試験	

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅰ）

担当教員	小倉秀樹・片倉弘隆	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷を鑑別するうえでも臨床医学および解剖生理学の基礎を理解をするため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床医学総論 2. 人体の構造と機能 3. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	診察の意義・診察の進め方	16	解剖学の応用
2	医療面接・視診	17	
3	打診・聴診・触診	18	
4	生命徴候	19	
5	感覚検査	20	中間試験
6	反射検査	21	生理学の基礎
7	代表的な臨床症状	22	
8	生命徴候の測定・生理機能検査	23	
9	検体検査・運動機能検査	24	
10	中間試験	25	生理学の応用
11	解剖学の基礎	26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	期末試験
備考	授業内で小テストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅱ）

担当教員	工藤久美子・八重樫正	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷を鑑別するうえでも臨床医学および解剖生理学の基礎を理解をするため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復理論（上肢各論） 2. 柔道整復理論（下肢各論） 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	回	講義内容
1	鎖骨部の損傷 鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼	16	骨盤部の損傷
2	肩部の損傷① 肩関節脱臼 腱板損傷・上腕二頭筋損傷	17	股関節部の損傷 1：骨折・脱臼
3	肩部の損傷② その他の軟部組織損傷	18	股関節部の損傷 2：軟部組織損傷
4	上肢の末梢神経障害 1	19	大腿部の損傷：骨折・軟部組織損傷
5	上肢の末梢神経障害 2	20	膝関節部の損傷 1：骨折・脱臼
6	上腕骨の骨折	21	膝関節部の損傷 2：軟部組織損傷①
7	肘関節部の損傷 1 肘関節脱臼・肘内障	22	膝関節部の損傷 3：軟部組織損傷②
8	肘関節部の損傷 2 軟部組織損傷	23	下腿部の損傷
9	前腕部の損傷 1：骨折	24	足関節部の損傷 1：骨折・脱臼
10	前腕部の損傷 2：軟部組織損傷	25	足関節部の損傷 2：軟部組織損傷
11	手部の損傷 1：骨折 中手骨の骨折 他	26	足・足趾の損傷 1：骨折・脱臼
12	手部の損傷 2：脱臼 示指 PIP 関節脱臼 他	27	足・足趾の損傷 2：軟部組織損傷①
13	手部の損傷 3：軟部組織損傷	28	足・足趾の損傷 3：軟部組織損傷②
14	総復習	29	総復習
15	試験	30	試験
備考	授業内で小テストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅲ）

担当教員	大島康宏・板橋哲也	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷についての理論を植付け、柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の概説（原因・分類・症状・鑑別診断等） 2. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	頭部・顔面の骨折	16	脊椎の脱臼
2	頭部・顔面の骨折	17	脊椎の脱臼
3	頭部・顔面の骨折	18	脊椎の軟部組織損傷
4	顎関節脱臼	19	脊椎の軟部組織損傷
5	顎関節脱臼	20	試験
6	顎関節脱臼	21	頭部外傷
7	頭部・顔面部打撲	22	頸部外傷
8	顎関節症	23	胸部外傷
9	顎関節症	24	脳血管障害
10	試験	25	脳梗塞
11	胸部の骨折（肋骨骨折・胸骨骨折）	26	脳出血
12	胸部の骨折（肋骨骨折・胸骨骨折）	27	くも膜下出血
13	胸部の軟部組織損傷	28	脳卒中の救急対応
14	脊椎の骨折	29	試験
15	脊椎の骨折	30	試験解説
備考	授業内で小テストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅳ）

担当教員	松田 心一	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢における骨折の概要説明 2. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	回	講義内容
1	鎖骨骨折	16	前腕骨近位端部骨折
2		17	
3		18	
4	肩甲骨骨折	19	前腕骨骨幹部骨折
5		20	
6		21	
7	上腕骨近位端部骨折	22	前腕骨遠位端部骨折
8		23	
9		24	
10	上腕骨骨幹部骨折	25	手根部の骨折
11		26	
12		27	
13	上腕骨遠位端部骨折	28	手指部の骨折
14		29	
15	中間試験	30	期末試験
備考	授業内で小テストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅴ）

担当教員	片倉 弘隆	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>「柔道整復師施設指導要領」に基づき講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢における脱臼および軟部組織損傷の概要説明 2. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	回	講義内容
1	上肢機能解剖	16	前腕部軟部組織損傷
2	上肢機能解剖	17	手関節脱臼
3	中間試験①(機能解剖)	18	手関節軟部組織損傷
4	胸鎖関節脱臼	19	CM・MP 脱臼
5	肩鎖関節脱臼	20	PIP・DIP 脱臼
6	肩関節脱臼	21	指軟部組織損傷
7	練習問題	22	練習問題
8	肩軟部組織損傷	23	復習
9	肩軟部組織損傷	24	中間試験③
10	練習問題	25	総復習
11	肘関節脱臼	26	総復習
12	練習問題	27	総復習
13	肘関節軟部組織損傷	28	総復習
14	練習問題	29	期末試験
15	中間試験②	30	解説
備考	授業内で小テストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床柔整学Ⅵ）

担当教員	板橋 哲也	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復学各論下肢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖 2. 下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

	講義内容	回	講義内容
1	ガイダンス・固定材料作成	11	アキレス腱断裂固定
2	固定材料作成	12	足関節外側靭帯損傷
3	大腿四頭筋打撲	13	足関節外側靭帯損傷固定
4	ハムストリング肉離れ	14	足関節テーピング(バスケット)
5	膝関節側副靭帯	15	足関節テーピング(ヒールロック)
6	膝前十字靭帯	16	総合復習
7	膝半月板損傷	17	総合復習
8	膝関節固定(X サポートテーピング)	18	総合復習
9	下腿骨骨幹部骨折固定	19	試験
10	下腿三頭筋肉離れ	20	試験

回	講義内容	備考
1~10	下肢の軟部組織損傷	必要に応じ中間試験を追加 実施する
11	整復法	
12	固定法	
13	後療法	
14	指導管理	
15	中間試験	
16~26	下肢骨折	
27	中間試験	
28~38	下肢脱臼	
39	期末試験	
40	復習	

柔道整復学科・昼間部・2年生（基礎柔道整復実技Ⅳ）

担当教員	板橋 哲也	単位・時間	2単位・60時間（30コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復学各論下肢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖 2. 下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

	講義内容	回	講義内容
1	ガイダンス・固定材料作成	11	アキレス腱断裂固定
2	固定材料作成	12	足関節外側靭帯損傷
3	大腿四頭筋打撲	13	足関節外側靭帯損傷固定
4	ハムストリング肉離れ	14	足関節テーピング(バスケット)
5	膝関節側副靭帯	15	足関節テーピング(ヒールロック)
6	膝前十字靭帯	16	総合復習
7	膝半月板損傷	17	総合復習
8	膝関節固定(X サポートテーピング)	18	総合復習
9	下腿骨骨幹部骨折固定	19	試験
10	下腿三頭筋肉離れ	20	試験

回	講義内容	備考
1~10	下肢の軟部組織損傷	必要に応じ中間試験を追加 実施する
11	整復法	
12	固定法	
13	後療法	
14	指導管理	
15	中間試験	
16~26	下肢骨折	
27	中間試験	
28~38	下肢脱臼	
39	期末試験	
40	復習	

柔道整復学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅰ）

担当教員	板橋哲也・杉浦透	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復学各論上肢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖 2. 上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・固定材料作製	必要に応じ中間試験を追加 実施する
2	固定材料	
3	全身状態・合併症	
4	鎖骨診察・整復	
5	鎖骨固定セイヤー	
6	上腕骨外科頸診察・整復	
7	上腕骨骨幹部固定	
8	コーレス骨折診察・整復	
9	コーレス骨折固定	
10	骨折復習	
11	肘関節脱臼診察・整復	
12	肘関節脱臼固定	
13	肘内障	
14	肩軟損診察と検査法(腱板)	
15	肩軟損診察と検査法(二頭筋)	
16	第5中手骨頸部掌側固定	
17	第2PIP背側脱臼背側固定	
18	総練習	
19	総練習	
20	総練習	
21	試験	
22	試験	
22.5	試験総評	

柔道整復学科・昼間部・2年生（応用実技Ⅱ）

担当教員	杉浦・小倉・大島・八重樫	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復学各論下肢</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖 2. 下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の概説 3. 整復法と固定法および後療法 4. 整復・固定・後療の実技・演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	ガイダンス・固定材料作成	必要に応じ中間試験を追加 実施する
2	固定材料作成	
3	全身状態・合併症	
4	大腿四頭筋打撲診察・検査	
5	ハムストリング肉離れ診察・検査	
6	膝関節側副靭帯診察・検査	
7	膝前十字靭帯診察・検査	
8	膝半月板損傷診察・検査	
9	下腿三頭筋肉離れ診察・検査	
10	足関節外側靭帯損傷診察・検査	
11	診察・検査復習	
12	膝関節固定 (X サポートテーピング)	
13	下腿骨骨幹部骨折固定	
14	アキレス腱断裂固定	
15	足関節外側靭帯損傷固定	
16	足関節テーピング (バスケットウィーブ)	
17	足関節テーピング (ヒールロック)	
18	総練習	
19	総練習	
20	総練習	
21	試験	
22	試験	
22.5	試験総評	

柔道整復学科・昼間部・2年生（画像評価実技Ⅰ）

担当教員	松田・片倉	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<p>柔道整復学各論 1. 上肢骨折の概説 2. 上肢軟部組織損傷の概説 3. 画像診断法</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考	
1		必要に応じ中間試験を追加 実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			上肢の解剖学
10			上肢骨折について整復及び固定
11			上肢骨折の復習
12			応用問題の演習
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21	画像診断の取扱い		
22	画像による鑑別		
22.5	画像診断装置の操作		

柔道整復学科・昼間部・2年生（総合実技Ⅰ）

担当教員	片倉・八重樫・大村	単位・時間	1単位・45時間（22.5コマ）
教育目標	<p>柔道整復学および柔道整復術を学ぶことは、柔道整復師を目指すものにとり欠かすことのできない分野である。基礎柔道整復学をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を通して学び、柔道整復術の意義、社会的役割を認識し、医療人として患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上を図ると同時に、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため、実技を通してさらに実践的な柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心として講義を進めていく方針である。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎医学 2. 柔道 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	運動学の基礎	必要に応じ中間試験を追加 実施する
2	運動学の問題演習	
3	運動学の問題解説	
4	運動学の応用問題演習	
5	運動学の問題解説	
6	試験	
7	整形外科学の基礎	
8	整形外科学の問題演習	
9	整形外科学の問題解説	
10	整形外科学の応用問題演習	
11	整形外科学の問題解説	
12	試験	
13	病理学の基礎	
14	病理学の問題演習	
15	病理学の問題解説	
16	病理学の応用問題演習	
17	病理学の問題解説	
18	試験	
19	柔道の礼法	
20	柔道の型	
21	柔道の乱取り	
22	柔道の総復習	
22.5	柔道の総復習	

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床実習Ⅰ）

担当教員	工藤・大島・板橋	単位・時間	1単位・45時間（30コマ）
教育目標	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習の心得 2. 軟部組織損傷の基礎実習 3. 脱臼の基礎実習 4. 骨折の基礎実習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	臨床実習の心得	必要に応じ中間試験を追加 実施する
2	医療面接	
3	物理療法	
4	神経学的検査法	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17	総合実習	
18	臨床実践	
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

柔道整復学科・昼間部・2年生（臨床実習Ⅱ）

担当教員	小倉・八重樫	単位・時間	1単位・45時間（30コマ）
教育目標	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習の心得 2. 軟部組織損傷の基礎実習 3. 脱臼の基礎実習 4. 骨折の基礎実習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（実技編）	著者名	社団法人全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考
1	臨床実習の心得	必要に応じ中間試験を追加 実施する
2	カルテ記入についての基礎	
3	徒手的検査法	
4	神経学的検査法	
5	ROMテスト	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18	総合実習	
19	臨床実践	
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

柔道整復学科・昼間部（3年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
基礎	経 営 学	佐 藤 孝 一	15	1	10
専門基礎分野	リハビリテーション医学	武 田 涼 子	30	2	20
	公 衆 衛 生 学	本 多 丘 人	30	2	20
	統 合 専 門 基 礎 医 学	山本・飯塚・岸野	105	7	70
	関 係 法 規	八 重 樫 正	15	1	10
	柔 道 III	八重樫・大村・松田	30	1	20
専門分野	臨床柔道整復学Ⅱ	渡辺・八重樫 板橋・工藤	75	5	50
	臨床柔道整復学Ⅲ	杉浦・小倉・松田	75	5	50
	統 合 柔 道 整 復 学	岩倉・片倉・小倉 松田・工藤・板橋・大島	90	6	60
	整 復 固 定 法	小倉・工藤・松田・板橋 八重樫・杉浦・大島	60	2	40
	評 価 ・ 後 療 法	小倉・松田・工藤 大島・片倉	30	1	20
	臨 床 実 習	工藤・板橋・大島	45	1	30
			600	34	400

柔道整復学科・昼間部・3年生（経営学）

担当教員	佐藤孝一	単位・時間	1単位・15時間（10コマ）
教育目標	経営理論、ケーススタディを通して、より実践的な経営基礎知識を習得してもらう。		
授業内容	<p>(1) ヒト・モノ・カネがなぜ経営の三要素と言われるのか、様々な実例を交え講義する。</p> <p>(2) 経営の方向を左右するマーケティングやビジネスプランについて講義する。</p> <p>(3) 企業経営者をゲストスピーカーに招き、企業経営に必要な資質・条件等を学んでもらう。</p>		
成績評価	<p>成績評価にあたっては、</p> <p>① レポート②小テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</p> <p>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。</p> <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	特になし	著者名	
		出版社名	
参考書	特になし	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	経営学概論Ⅰ	
2	経営学概論Ⅱ	
3	ファイナンスの基礎知識	
4	マーケティングの基礎知識Ⅰ	
5	マーケティングの基礎知識Ⅱ	
6	企業ケーススタディⅠ	
7	企業ケーススタディⅡ	
8	開業に必要な基礎知識	
9	ビジネスプラン演習	
10	まとめ	

柔道整復学科・昼間部・3年生（リハビリテーション医学）

担当教員	武田涼子	単位・時間	2単位・30時間（20コマ）
教育目標	<p>今の高齢化社会において、リハビリテーション医学の重要性はますます高まっている。リハビリテーション医学は多くの職種の専門が集まって、人鋭の患者に共通の目標を持って総合的に治療を行っておく、いわゆるチームアプローチが基本である。現在、地域リハビリテーション医学の充実が必要となり、リハビリテーションの需要がさらに広がっている。その中で患者の持つあらゆる障害に対処していなければならないリハビリテーション医学はその対象が広くなり、専門的な知識と技術を持ち、あらゆる場面に処置できる優秀なリハビリテーションスタッフを養成していくことが必要となっている。柔道整復師としての業務範囲はおのずと制限されるが、広い知識を身につけ、技術の向上に努め、医療分野の一翼を担い、社会の要請に応じられる人材の育成を図り、リハビリテーション医学の講義をすすめていく方針である。</p>		
授業内容	<p>心身の障害を捕らえ方法、すなわち評価と障害に対する治療的アプローチの概要を教授する。障害像では多岐にわたり、学生が理解にも困難さが予測されるが、臨床場面の話を言い、確実に定着した能力を身に付ける。単元毎に知識の定着を見るために小テストを行い、教授する側のフィードバックとする。国家試験の過去問題も一緒に用いながら、常に臨戦態勢で講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	リハビリテーション医学(改訂第3版)	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	リハビリテーション医学の概念と方法	
2	障害学の三つのレベルとアプローチ	
3	リハビリテーション医学の基礎医学1	
4	リハビリテーション医学の基礎医学1	
5	障害学	
6	評価学1	
7	評価学2	
8	治療学1	
9	治療学2	
10	中間テスト	
11	中間テスト解析	
12	リハビリテーションの実際 脳卒中	
13	リハビリテーションの実際 脊髄損傷	
14	リハビリテーションの実際 切断	
15	リハビリテーションの実際 脳性麻痺（小児）	
16	リハビリテーションの実際 関節リウマチ	
17	リハビリテーションの実際 整形外科疾患	
18	リハビリテーションの実際 肺疾患・心疾患	
19	期末試験	
20	期末試験の解析	

柔道整復学科・昼間部・3年生（公衆衛生学）

担当教員	本多 丘人	単位・時間	2単位・30時間（20コマ）
教育目標	<p>最終学年になり医学の基礎もかなり身に付いたことと思うが、ここで公衆衛生学を学習したい。</p> <p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布するので、資料は生理して保存しておいてほしい。</p> <p>授業は過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。また後期に始まる統合基礎医学でもさらに理解を深めていきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	シンプル衛生公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂
参考書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備 考
1	第1・2章 公衆衛生学と健康 1	
2	第1・2章 公衆衛生学と健康 2	
3	第3章 疾病予防と健康	
4	第4章 感染症 1	
5	第4章 感染症 2	
6	第5章 消毒	
7	第6章 環境保健 1	
8	第6章 環境保健 2	
9	第6章 環境保健 3	
10	第1回試験	60点未満の者は再試験を行う。
11	第7章 母子保健	
12	第8章 学校保健	
13	第9章 産業保健	
14	第10章 成人・老人保健	
15	第11章 精神保健	
16	第12章 生活環境・食品衛生	
17	第13章 地域保健と国際保健	
18	第14章 衛生行政と保健医療	
19	第15章 疫学	
20	第2回試験	60点未満の者は再試験を行う。

柔道整復学科・昼間部・3年生（統合専門基礎医学）

担当教員	山本・飯塚・岸野	単位・時間	7単位・105時間（70コマ）
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学・病理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	<p>1. 解剖生理学のまとめ（48コマ、担当：山本）</p> <p>2. 病理学のまとめ（10コマ、担当：飯塚）</p> <p>3. 生理学のまとめ（12コマ、担当：岸野）</p> <p>なお、授業の途中で、適宜、中間試験を実施することがある</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	山本・講義内容	回	山本・講義内容	回	岸野・講義内容
1	運動器：総論	31	栄養素 2	1	生理学の復習
2	運動器：頭部	32	泌尿器：腎臓	2	生理学の復習
3	運動器：頸部・胸部	33	泌尿器：腎臓・尿路	3	生理学の復習
4	運動器：腹背部・上肢帯	34	内分泌 1	4	生理学の復習
5	運動器：上肢	35	内分泌 2	5	生理学の復習
6	運動器：下肢	36	体温調節・体液調節	6	中間試験
7	細胞膜・細胞小器官	37	中間試験③	7	生理学の復習
8	細胞核・細胞分裂	38	神経系の基礎	8	生理学の復習
9	生殖と発生	39	中枢神経：大脳	9	生理学の復習
10	上皮組織・結合組織	40	中枢神経：大脳・脳幹	10	生理学の復習
11	骨組織・筋組織	41	中枢神経：脊髄	11	生理学の復習
12	中間試験①	42	末梢神経：脳神経	12	期末試験
13	循環器：総論	43	末梢神経：脊髄神経		
14	循環器：心臓 1	44	末梢神経：自律神経		
15	循環器：心臓 2	45	感覚器：総論・皮膚		
16	循環器：動脈 1	46	感覚器：視覚器		
17	循環器：動脈 2	47	感覚器：聴覚器		
18	循環器：静脈	48	期末試験		
19	循環器：リンパ管				
20	血液	回	飯塚・講義内容		
21	免疫機構 1	1	病因、退行性病変 1		
22	免疫機構 2	2	循環障害、進行性病変 1		
23	呼吸器 1	3	炎症、免疫 1		
24	呼吸器 2	4	腫瘍、先天性疾患 1		
25	中間試験②	5	まとめ試験 1		
26	消化器：口腔	6	病因、退行性病変 2		
27	消化器：食道・胃	7	病因、退行性病変 2		
28	消化器：腸管	8	炎症、免疫 2		
29	消化器：肝臓・膵臓	9	腫瘍、先天性疾患 2		
30	栄養素 1	10	まとめ試験 2		
備考 試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。					

柔道整復学科・昼間部・3年生（関係法規）

担当教員	八 重 樫 正	単位・時間	1 位・15 時間（10 コマ）
教育目標	柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。		
授業内容	<p style="text-align: center;">以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の意義 2. 柔道整復師法とその関連内容 3. 医療従事者の身分関係法 4. 医療法 5. 薬事法規 6. 衛生関係法規 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	関係法規	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	序論、総則	
2	免許	
3	柔道整復師試験、業務	
4	施術所、雑則	
5	罰則、指定登録機関および指定試験期間、附則	
6	医療従事者の資格法	
7	医療法その他の関係法規	
8	試験	
9	試験解説	
10	総合復習	
備考		

柔道整復学科・昼間部・3年生（柔道Ⅲ）

担当教員	八重樫・大村・松田	単位・時間	1 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	柔道小史、受身	
2	出足払、膝車、支釣込足	
3	浮き落とし	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	投の形、打ち込み、投げ込み	
15	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
16	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
17	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
18	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
19	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
20	試験	

柔道整復学科・昼間部・3年生（臨床柔道整復学Ⅱ）

担当教員	渡辺・八重樫・板橋・工藤	単位・時間	5単位・75時間（50コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷についての理論を植付け、柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の原因説明 2. 各外傷の分類説明 3. 各外傷の症状説明 4. 各外傷鑑別診断説明 5. 問題演習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	柔道整復学に必要な機能解剖	26	骨折・脱臼の概論・総論①
2		27	
3	上肢の軟部組織損傷①	28	
4		29	体幹部の外傷
5		30	
6	下肢の軟部組織損傷②	31	上肢の外傷
7		32	
8		33	
9	頭部外傷	34	
10		35	
11	上肢の軟部組織損傷②	36	下肢の外傷
12		37	
13		38	
14	下肢の軟部組織損傷②	39	骨折・脱臼の概論・総論②
15		40	
16		41	
17	総合演習	42	
18		43	
19		44	
20	○頭部外傷	45	足部・足趾部の外傷
21	○上肢帯・上腕部の外傷	46	
22	○下肢帯・大腿部の外傷	47	総合演習 全身の外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)
23		48	
24		49	
25	中間試験	50	期末試験
備考	講義時間内でテストを行うことがある。		

柔道整復学科・昼間部・3年生（臨床柔道整復学Ⅲ）

担当教員	杉浦・小倉・松田	単位・時間	5単位・75時間（50コマ）
教育目標	<p>柔道整復の臨床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得することを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1. 各分野の問題演習 2. 各分野の解説</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

講義内容		備 考
1~9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	中間試験	
11~20	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
備考： 小テスト・出席なども試験の点数に考慮することがある		

講義内容		備 考
1~9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	中間試験	
11~19	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
20	中間試験	
21~30	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
備考： 小テスト・出席なども試験の点数に考慮することがある 授業内容がすべて終了した時期に期末試験を実施。		

柔道整復学科・昼間部・3年生（統合柔道整復学）

担当教員	岩倉・片倉・小倉 松田・工藤・板橋・大島	単位・時間	6単位・90時間（60コマ）
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とします。		
授業内容	解剖学・生理学・病理学・運動学・関係法規・一般臨床医学・リハビリテーション医学・整形外科学・外科学概論・柔道整復学等について、担当の教員が講義を行います。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	回	講義内容	備考
1	31	解剖学・生理学・病理学・運動学・関係法規・一般臨床医学・リハビリテーション医学・整形外科学・外科学概論・柔道整復学等について、担当の教員が講義を行います。 ※ この 60 講の中で、9 回程度の中間試験を実施します。 ※ 中間試験等の詳細な日程については、後日発表します。	
2	32		
3	33		
4	34		
5	35		
6	36		
7	37		
8	38		
9	39		
10	40		
11	41		
12	42		
13	43		
14	44		
15	45		
16	46		
17	47		
18	48		
19	49		
20	50		
21	51		
22	52		
23	53		
24	54		
25	55		
26	56		
27	57		
28	58		
29	59		
30	60		

柔道整復学科・昼間部・3年生（整復固定法）

担当教員	小倉・工藤・松田・板橋 八重樫・杉浦・大島	単位・時間	2 単位・60 時間（40 コマ）
教育目標	<p>柔道整復学理論や柔道整復学実技をもとに、柔道整復師が実際に業とする運動器外傷を想定し、機能解剖を習得し、触診法および鑑別診断など柔道整復師として必要な知識を習得する。</p> <p>国家試験の内容に対応できる運動器外傷の総論、各論の知識の習得に努める。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の概説 2. 整復方法 3. 固定方法 4. 国家試験に対応した運動器外傷の総論、各論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学（実技編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	回	講義内容
1	ガイダンス・固定材料作成	21	膝内側半月損傷（検査法）
2	肩鎖関節脱臼（整復）	22	下腿三頭筋肉離れ（検査法）
3	肩鎖関節脱臼（固定）	23	足関節外側靭帯損傷（検査法）
4	肩関節脱臼（整復）	24	復習
5	肩関節脱臼（固定）	25	上腕骨骨幹部骨折（固定）
6	鎖骨骨折（整復）	26	第5中足骨頸部骨折（固定）
7	鎖骨骨折（固定）	27	下腿骨骨幹部骨折（固定）
8	外科頸骨折（整復）	28	肋骨骨折（固定）
9	コーレス骨折（整復）	29	第2指PIP関節背側脱臼（固定）
10	コーレス骨折（固定）	20	アキレス腱断裂（固定）
11	肘関節脱臼（整復）	31	足関節外側靭帯損傷（副子固定）
12	肘関節脱臼（固定）	32	膝内側側副靭帯損傷（テープ）
13	肘内障（整復）	33	足関節外側靭帯損傷（テープ：2種）
14	腱板損傷（検査法）	34	予備（入退室）
15	上腕二頭筋長頭腱損傷（検査法）	35	総合復習
16	復習	36	総合復習
17	ハムストリングス肉離れ	37	総合復習
18	大腿四頭筋打撲（検査法）	38	試験
19	膝関節側副靭帯損傷（検査法）	39	試験
20	膝前十字靭帯損傷（検査法）	40	試験
備考 上記以外に試験を実施する			

柔道整復学科・昼間部・3年生（評価・後療法）

担当教員	小倉・松田・工藤 大島・片倉	単位・時間	1 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	柔道整復学理論や柔道整復学実技をもとに、柔道整復師が実際に業とする運動器外傷を想定し、機能解剖を習得し、実際の身体に触れ、触診法および鑑別診断など卒業後柔道整復師として役に立つ実技を行なう。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各外傷の概説 2. 診断方法 3. 検査方法 4. 治療法 5. 画像診断 6. 実技審査対策 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	柔道整復学（実技編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

講義内容			
1	肩鎖関節脱臼（整復・固定）	11	上腕骨骨幹部骨折 第5中手骨頸部骨折（固定）
2	肩関節脱臼（整復・固定）	12	下腿骨骨幹部骨折 肋骨骨折（固定）
3	鎖骨骨折（整復・固定）	13	第2指PIP関節背側脱臼 アキレス腱断裂（固定）
4	外科頸骨折・肘内障（整復）	14	足関節外側靭帯損傷（固定）
5	コーレス骨折（整復・固定）	15	膝内側靭帯損傷（固定）・膝復習
6	肘関節脱臼（整復・固定）	16	上記内容についての総合演習
7	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷（検査）	17	上記内容についての総合演習
8	大腿部損傷（検査）	18	試 験
9	膝関節損傷（検査）	19	試 験
10	下腿三頭筋肉離れ 足関節外側靭帯損傷（検査）	20	試 験
備考 上記以外に試験を実施する			

柔道整復学科・昼間部・3年生（臨床実習）

担当教員	工藤・板橋・大島	単位・時間	1 単位・45 時間（30 コマ）
教育目標	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習の心得 2. 軟部組織損傷の基礎実習 3. 脱臼の基礎実習 4. 骨折の基礎実習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点 「不可」：59 点以下 		

教科書	柔道整復学(実技編)	著者名	(社) 全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	(社) 全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備考	
1	臨床実習の心得		
2	カルテ記入についての基礎		
3	徒手検査法		
4	神経学的検査法		
5	ROMテスト		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17		総合実習	
18		臨床実践	
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30	期末テスト		